

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

2月

15日

釈尊涅槃会

先勝 女

旧1月25日

水曜

妙法蓮華経序品第一

般涅槃

はつ

ね

はん

「一切の煩惱を断じた境地」

「般涅槃」は一切の煩惱を断じた境地、完全な悟りを意味します。

仏さまは教えを説いた後に世の中から姿を消してしまふので入滅ともいいます。いつでも仏さまに会えると思うと、人は慣れて真剣に聞くうという気持ちを持て失くしてしまふからです。

仏さまが一生を捧げた大切な教えを護り伝えていくようにと私たちに託し、涅槃に入られるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

2月

16日

宗祖降誕会

友引 虚

旧1月26日

木曜

妙法蓮華経序品第一

起き七しつ宝ぼう塔とう

「塔は仏の教えを受け継ぐ象徴」

仏さまが般涅槃して世の中から姿を消した後、
遺された人々はご遺骨を埋めて七宝で飾った
塔を起てました。

塔を起てるということは、仏さまの徳を讃える
とともに、その教えを永く受け継いでいこうと
する決意を表しています。

世界各地に残る仏舍利塔や五重塔は、現在まで
仏さまの教えを受け継いできた象徴です。

その思いを未来まで受け渡していきましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

2月

17

日

先負 危

旧1月27日

金曜

妙法蓮華経序品第一

弥^み勒^{ろく}菩^ぼ薩^{さつ}

「弥勒菩薩が問う」

弥勒菩薩はお釈迦さまの次に仏陀となる菩薩。

「阿逸多」の名で呼ばれる場合もあります。

法華経序品第一では、目の前に現れたさまさまな奇瑞について、弥勒菩薩が皆を代表して文殊菩薩に質問します。

皆の疑問を取り除きたいという弥勒菩薩の慈悲の気持ちの表れであり、文殊菩薩もまた慈悲の気持ちで、その智慧をもってお答えになりました。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

2月

18日

仏滅 室

旧1月28日

土曜

妙法蓮華経序品第一

もん じゅ し り ぼ さつ
文殊師利菩薩

「文殊菩薩が答える」

文殊菩薩は文殊師利菩薩の略称。

智慧第一といわれる文殊菩薩は様々な經典に登場し教えを説いています。

法華経序品第一では、文殊菩薩は法王の御子であり、過去世において多くの仏さまに仕えてきた経験もあるので、この奇瑞についても忘れてくださるだろうと、弥勒菩薩が質問しました。文殊菩薩は、過去世において往時の仏さまが同じ奇瑞を示されたと説き始めます。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

2月

19日

大安 壁

旧1月29日

日曜

妙法蓮華経序品第一

せん だん こう ふう

えっ か しゅ しん

梅檀香風

悦可衆心

「人々に悦びを与える風が吹く」

梅檀という香木に風が吹くと、あたり一面に良い香りが広がり、人びとに悦びを与えます。

良き教えも梅檀の香風と同じように人々の心を楽しませてくれます。

仏さまの側にいると心が清められ、優しくなり、勇気が湧いてくることでしょう。

私たちも仏さまの教えを学び、少しでも仏さまに近づけるよう振る舞い、周りの人の心を清め悦びを与えられるようになりたいものです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

2月

20日

雨水 友引 奎

旧2月1日

月曜

妙法蓮華経序品第一

いぜ いんねん

じ かい こんじよう

以是因縁 地皆嚴淨

「仏さまは何故この地を清めたのか」

仏さまはどのような理由があつて、仏の国土を清められたのでしょうか。

清らかな国土を実現するために働いたのは仏さまではなく、そこに住む人たちです。

仏さまの教えを信じ、その教えに従つて、その国土が少しでも清らかにするようにと努めていけば、仏さまの願いも叶うのです。

お釈迦さまも今この娑婆世界に住む私たちが安穩な国土を築くことを願っているのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

2月

21日

先負 婁

旧2月2日

火曜

妙法蓮華経序品第一

聖主じょうしゅ師子しし

「全力で導く仏さま」

「聖主」は悟り大勢を導く人。最も勝れた人を獅子にたとえます。「師子」と「獅子」は同義。獅子は兎を獲るときも、象を倒すときも同じように全力を注ぎます。仏さまは知恵のある人にも、物を知らない人にも同じように全力で教えを説かれます。獅子のように全力で、最も深い教えをそれぞれ
の理解力に応じて説き、同じ悟りの世界まで導いて下さるのが「聖主師子」です。

妙法蓮華經。序品。第一

〈略〉

復見諸仏。般涅槃者。復見諸仏。般涅槃後。以仏舍利。起七宝塔。爾時弥勒菩薩。作是念。今者世尊。現神變相。以何因縁。而有此瑞。今仏世尊。入于三昧。是不可思議。現希有事。當以問誰。誰能答者。復作此念。是文殊師利法王之子。已曾親近供養。過去無量諸仏。必忘見此。希有之相。我今當問。

〈略〉

善惡業縁	受報好醜	於此悉見	又覩諸仏	聖主師子
從阿鼻獄	上至有頂	諸世界中	六道衆生	生死所趣
得未曾有	眉間光明	照于東方	万八千土	皆如金色
而此世界	六種震動	時四部衆	咸皆歡喜	身意快然
曼殊沙華	梅檀香風	悦可衆心	以是因縁	地皆嚴淨
文殊師利	導師何故	眉間白毫	大光普照	雨曼陀羅